

QOL

Quality
Of
Life

QOL
サポーター
新潟

42

2016年12月10日発行
新潟医療福祉大学広報委員会編集



10月9日(日)・10日(月・祝) 本学にて伍桃祭(大学祭)が行われました。今年のテーマは、「千祭一週」。当日は、多くの学生や地域の方々にご来場いただき、キャンパスのいたるところで笑顔が見られる大変賑やかなイベントとなりました。

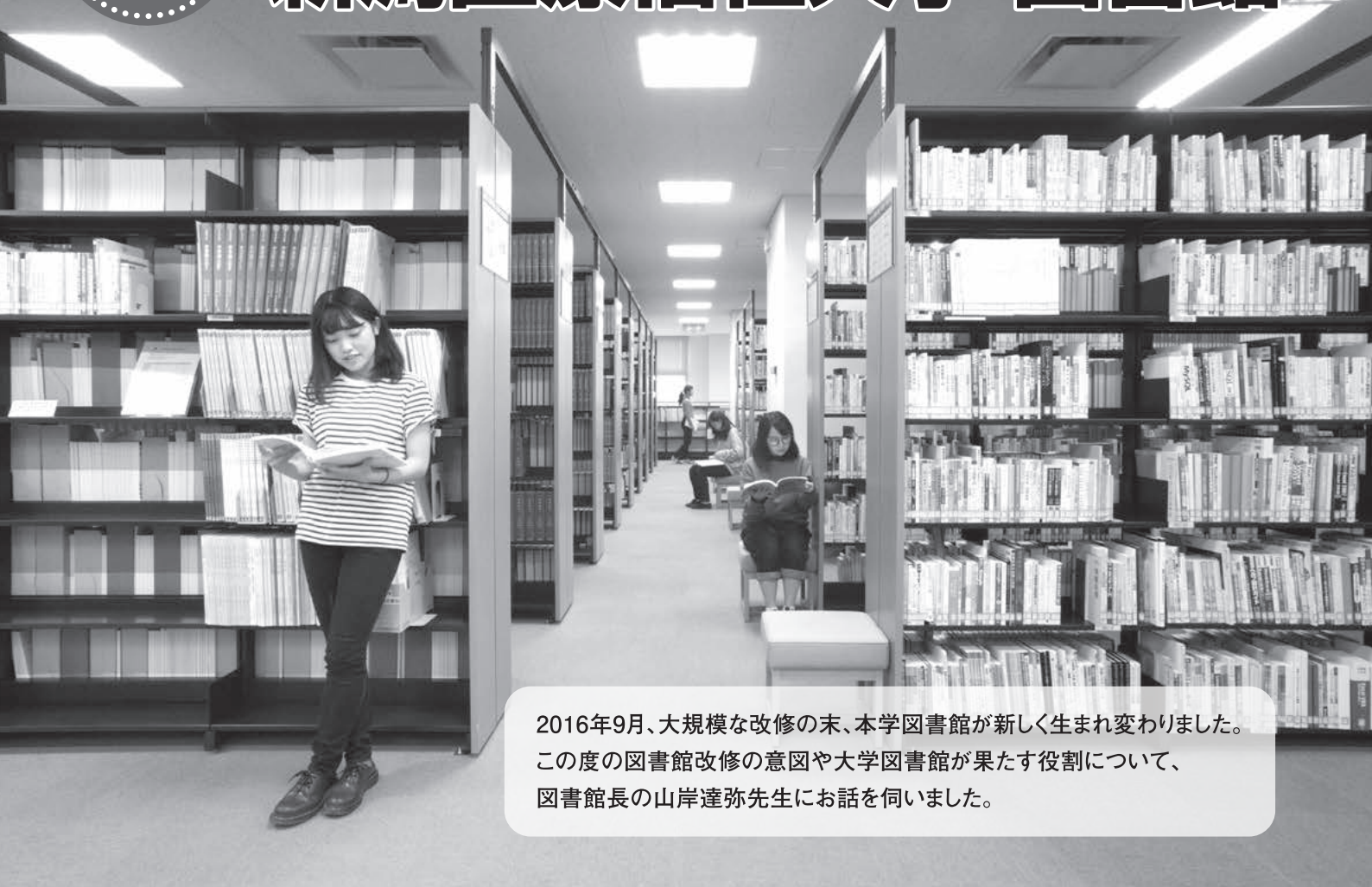
- Index
- 特集「生まれ変わった新潟医療福祉大学図書館」
 - 「連携総合ゼミ」開催報告
 - 学外実習体験記
 - 「第16回新潟医療福祉学会学術集会」開催報告
 - 卒業生レポート
 - CAMPUS NEWS
 - 伍桃祭を終えて
 - 高校生のみなさんへ



新潟医療福祉大学



生まれ変わった 新潟医療福祉大学 図書館



2016年9月、大規模な改修の末、本学図書館が新しく生まれ変わりました。この度の図書館改修の意図や大学図書館が果たす役割について、図書館長の山岸達弥先生にお話を伺いました。

リニューアルに寄せて

新潟医療福祉大学図書館 館長
言語聴覚学科 学科長

山岸 達弥

新潟医療福祉大学図書館は、2016年9月にリニューアルオープンしました。今回の改修では5,000人規模の学生数に見合った「質」と「利便性」の向上を実現するために、3階にあった大講堂を学習スペースに大改修するなどして、建物全体が名実ともに図書館棟として生まれ変わりました。また、学習支援センターの活動を図書館1階のラーニングcommonsに移設し、「学修」支援環境の一元化(ワンストップ)も実現しました。学士力獲得のため“学生の成長を促す”体制と環境構築の基盤となるものです。

大学図書館は、一般の図書館と違い、大学における学生の学習や大学が行う高度な教養、専門教育および学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤の役割を有しています。したがって、大学の教育・研究にとって不可欠な中核をなすものですが、情報化社会の進展に伴い、学術情報の流通が大きく変化しています。本学図書館では、建物の改修などハード面ばかりでなく、情報環境の変化を念頭におき、情報の収集や提供のあり方などソフト面もさらに充実するよう取り組んでいます。



図書館 基本情報

豊富な学術資料

約10万冊の専門図書を所蔵するほか、1,350種(電子版は7,000種)の雑誌が閲覧可能です。また、電子版の新聞や二次データベースも多数揃えており、実習先など学外からも利用できます。

開館時間

平日は22時まで、また12月から3月にかけては土曜日・日曜日も開館しています。定期試験や国家試験合格に向けての自主学習の場として、多くの学生に利用されています。

レファレンスサービス

資料の探し方やデータベースの使い方など各種サービスの利用方法から卒業研究時の文献相談まで、図書館スタッフが「あらゆる困りごと」についてサポートしています。

“学びのワンストップ”を実現する図書館施設

ラーニングcommons



レイアウトを自由に変えることのできる机や椅子、ホワイトボード、モニターを設置し、少人数でのグループ学習から50人規模のセミナーの開催まで様々な用途で使用できます。チーム医療を学ぶ「連携教育」実践の象徴となるスペースで、他者の学ぶ姿を目にすることで視覚的な刺激効果も期待しています。

また、別の棟に設置されていた「学習支援センター」をラーニングcommons内に設置することにより、図書館と連携した「学びに」に関するワンストップサービスを提供しています。

学習支援センターとは？

理系科目や日本語表現などの基礎科目の個別指導を始め、専門科目の補修セミナー等、学習に対して様々な要望を持つ学生一人ひとりの学びをサポートします。カウンターには学習アドバイザーや大学院生が常駐し、いつでも質問をすることができます。

また、学生同士や教職員との交流の場としてワークショップを開催し、交流の輪が広がることで個々の学習活動が豊かになることを目指しています。



グループ学習室



少人数でのグループ学習やゼミ活動に最適な学習室です。1階に1部屋、2階に2部屋設置されています。壁はガラスで活動風景が見えるようになっています。パソコンと接続できるモニターやホワイトボードを使用して、チームでの意見の取りまとめやプレゼンテーションの練習などに使用されています。

閲覧室



250席の座席を設置した閲覧室です。図書館棟の最上階である3階にあり、かつては大講堂であった高い天井を活かした広く静かな空間により、個人で学習をする上で、より集中できる学習環境を整えています。なお、五角形にかたどられた天井は、本学創設時に5学科であったことを表しています。

Interview

生まれ変わった本学図書館の利用方法について、 図書館の星名司書に伺いました。

Q 「ラーニングcommons」はどのように利用されていますか？

A 外部講師を招いてのデータベース講習会を実施したほか、公開授業や学内の勉強会などにも利用されています。また、お昼休みには、学習支援センター企画の「お礼状の書き方講座」や教員採用試験の補習などにも活用されています。

Q 今後、本学図書館がどのように活用されることを期待しますか？

A 本学の学びの特色である「連携教育」推進の場として活用されることを期待しています。一つの症例を他学科の学生と連携して検討する際に、館内の図書や雑誌を活用し、発表資料をグループで作り上げていく。そして多くの聴衆を前に公開型のプレゼンテーションを行い、意見を交換する。このようなチームアプローチを実践的に学ぶ「場」として活用してほしいです。

Q その他、おすすめの利用方法があれば教えてください。

A 1階ではたくさんの展示企画を計画していますが、中には利用者自らが参加できる「黒板書架」があります。落書き気分(笑)で好きな本の内容を記載することで、テーマに沿った推薦図書を共有することができます。

もう一つは、「ウェルカフェ」です。以前から学習支援センターの愛称として親しまれていますが、この場所では軽食をとることが可能です。お昼休みに開催される「ミニ講座」ではコーヒーが提供されますので、リラックスした雰囲気講座に参加することができます。



「連携総合ゼミ」開催報告

「連携総合ゼミ」とは、本学の特徴的な取り組みの一つである「連携教育」の一環として、4年次前期に開講されるゼミで、これまで学内外で修得した専門知識・技術を総動員し、「チーム医療」を実践的に学んでいきます。

ゼミでは、具体的な症例をもとに、関連する学科が混成チームを形成。グループワークを通じて対象者のQOL向上に向けた支援策を意見交換し、検討結果を発表します。

本年度の「連携総合ゼミ」では、新潟薬科大学、日本歯科大学新潟短期大学、新潟リハビリテーション大学、フィリピンのアンヘルズ大学、サントトマス大学、台湾の陽明大学の学生もチームの一員として加わり、国際的な視野が広がるなど、さらに「チーム医療」の学びの幅が広がりました。

連携総合ゼミの
流れ

①自己学習を行い自身が
担当する専門職を理解

②自己学習の成果を
グループ内で発表
し他の専門職を理解

③各専門職の立場から
意見を出し合い支援
策を共有

④協働して最善となる
具体的な支援プラン
を作成

⑤パワーポイントを
使用して研究成果
をグループ発表

Report.1

聴覚障害のある幼児を持つフィリピン人の母親への支援

言語聴覚学科 講師 桑原 桂

▶ 国際交流をしながら連携を考える

この事例は、今年度初めての新しい試みとして取り入れられました。外国籍の方が日本で病院等に関わらなければならなくなったとき、私たち医療現場で働く者たちがどのように支援をしていけるのかを考える目的で作られた事例です。世界が狭くなったと良く言われるように、日本にも外国籍の方々が大勢いらっしゃいます。そのような方々が、どのように毎日を過ごされているのか知らずにいる学生は多いと思います。しかし、これから実際にQOLサポーターとして働く立場になったとき、お会いする機会が予想以上に多いのです。新潟県では、過疎化が進む農業地域を活性化させるため、外国からの花嫁を迎える農家が多くあります。そういった地域には、日本語がまだあまり話せない母親たちに子育て支援をする必要が出てきており、県では様々な取り組みを行っています。その中に、聴覚障害の子どもを持つ世帯も多く見られ、私も様々な相談にのることがあります。

このような現状から、フィリピン人の難聴児を抱える母親の事例を加えることになりました。サントトマス大学から6人の学生と本学の学生3人の合わせて9名、サポート教員5名で、難聴児の母親の支援を考えました。本学の学生にとって、英語での話し合いは大変難しいものだったようです。フィリピンの学生たちにとって英語は公用語ですし、大学の授業は英語で受けていますから、当たり前のように積極的な議論をしてきます。また、ICF(国際生活機能分類)を使った支援評価の方法に関して、サントトマス大学では非常によく訓練を受けているようでした。日本人の学生たちは少数であることもあり押され気味でしたが、よく奮闘していました。この機会にフィリピンの学生から非常に大きな刺激を受け、英語と一緒に考え、物事を進めていく楽しさも味わったようです。また、事例の母親が異国で言葉も通じない中、難聴児を育て、頑張っていることと、自分たちの苦勞とを重ね合わせた経験も、今後QOLサポーターとなるとときに大きな糧になることでしょう。



参加学生からの感想・コメント



フィリピンの学生との交流では、多くの戸惑いがありました。言葉のニュアンスや母国の気質などの違いが、困難さを感じる要因となっていたように思います。しかし、異国の母親への治療を、症例の心境を感じ取りながら考えることができました。

(作業療法学科 山田 英里奈)



私はこのゼミ活動で、フィリピンの大学生と意思を互通せることができたことに嬉しさを感じました。うまく英語での会話ができない中でもフィリピンの大学生と難聴児を育てる親の支援に関して一緒に考えることができたからです。

(社会福祉学科 五十川 雄貴)



英語での話し合いは話しの流れを理解し自分の意見を伝えることが難しく、フィリピンの学生との事例検討では言語の壁を感じました。しかし、この体験から外国籍の母親の気持ちが理解でき、またフィリピンの学生たちの積極的な意見交換はとても刺激になりました。

(看護学科 金澤 優花)

▶ 実際の対象者と一緒に議論

私のグループでは、脳卒中片麻痺の患者様に大学までお越しいただき、実際に患者様に触れ、評価し、困っていることやニードなどのお話を伺いました。学生らは、理学療法学科・作業療法学科・健康栄養学科・看護学科に加え、新潟リハビリテーション大学と日本歯科大学新潟短期大学の学生により構成された3大学5学科の混成グループでした。

患者様と話し、評価する。臨床実習を終えているとはいえ、まだまだ緊張する作業のようです。学生はそれぞれ自分の評価を行い、他の職種の評価を見学しました。学生らは、他の職種を目指す学生の評価報告などは聞くことはあっても、実際の評価場面を見学することはあまりなかったようですので、この行程はとても貴重だと感じました。

そして、お互いの評価を報告します。専門職には当たり前ですが、他

の職種からは馴染みの薄い専門用語、中には略語などが飛び交い「それって何ていうの?」「その言葉の意味が全然わかんない」などと疑問をぶつけます。質問された学生は、家族など専門職でない人にもわかるような平易な言葉で、自分の評価を説明しなければいけません。「反射亢進とは?」「短下肢装具って?」など、専門職なら基本的で当たり前のことも、他の専門職には当たり前ではないのです。一生懸命に説明しようと思いますが、説明の中にもまた専門用語が入ってきます。この説明の時間はとても有意義でした。

そして、お互いの問題点を出し合ってから、この患者様のケアプランを作成します。お互いが、自分の問題点がいかにこのケースのコアの問題点であるのかアピールします。お互いを尊重しながらも、自分のこともアピールする。なかなか着地点が見つかりません。どこまで尊重し、どこを大事に思うのか。見ていて頼もしくさえ感じました。



参加学生からの感想・コメント



連携総合ゼミに参加したことで各職種の特色が見え、役割を理解すると同時に連携の重要性を実感しました。今回学んだことは、今後の社会生活に活かせる良い経験になったと思います。(作業療法学科 沢木 楓)



連携総合ゼミを通して、多職種との連携の重要性を学びました。職種ごとの着目点を全員で共有することで連携は深まり、目標達成に向けたより良い支援ができると感じました。ゼミ生と協力し、充実した1週間となりました。(作業療法学科 室橋 里奈)



“連携”という言葉は知っていても、どのように連携していくのかイメージしづらかったのですが、今回の連携総合ゼミを通して、実際の患者様に対して多職種がどのように関わっていくのかを身を持って学ぶことができ、貴重な経験になりました。(理学療法学科 渡邊 しおり)



患者様への援助を考える際、各学科の評価や意見から多職種の専門性を学ぶことができました。お互いが多職種の専門性を理解し、連携していくことが患者様のQOLの向上につながると改めて感じました。(看護学科 飯吉 理紗子)



それぞれの職種がどのように一人の患者様にアプローチし、互いにどのように連携していくかなど、今回の連携ゼミを経験するまで気付かなかったことや同じグループのメンバーから学ぶことが多くあり、とても良い経験になりました。(日本歯科大学新潟短期大学 がん関連口腔ケア学専攻科 能瀬 麻衣子)

平成28年度 連携総合ゼミ事例一覧

- 脳性まひ(疑い)児と育児不安を持つ母への成長・発達支援
- 女子高校生競技者の食育行動異常、無月経、骨粗鬆症
- 筋萎縮性側索硬化症(ALS)ケースの在宅療養実現への支援
- わたしも町のような人になりたい(精神科領域)
- 小学校虐待死事例の検証(報道事例)

- 切迫早産・妊娠高血圧症候群で入院が必要になった妊婦への援助
- 開発途上国における障害にある人たちのための地域に根差したリハビリテーション
- 高齢者糖尿病合併症の支援策
- 発達障碍児の特別支援教育における外部専門家との協力
- 重度四肢まひ者の家庭復帰計画
- 高齢者の骨折予防・治療と生活支援
- 高齢者への投薬



学外実習 体験記

本学では今年度、全11学科で学外実習を行いました。各専門職として高い実践力を身につけることを目標とした学外実習の成果を報告します。

患者様の生活を知ること

9月26日から3週間、新潟県長岡市の長岡保養園で評価実習をさせていただきました。実習では全てが貴重な体験であり、大学では学ぶことのできない日々を送ることができました。今回の実習では、1人の患者様を評価させていただきました。その中で私が一番学んだことは、「今後、患者様にどのような生活を送っていただきたいか」という考え方が大切であるということです。そのため、ただ単に低下している機能を評価するだけでなく、それが日常生活にどのような影響を与えているのかを考えて評価するように心がけました。そして、患者様と積極的に会話を交わすことや、他職種の方から情報を提供していただくことにより、患者様の全体像を把握することができました。患者様一人ひとりの生活を考慮したリハビリを行うことで、患者様の望む生活を送ってもらえると実感しました。

今回の実習で経験させていただいたこと、そこで抱いた感情を忘れずに、今後の勉学に励んでいきたいと思えます。



理学療法学科 3年
池津 真大

3週間の評価実習を終えて

私は、10月3日から新潟市西区にある西新潟中央病院にて3週間の評価実習をさせていただきました。実習では1人の患者様を担当させていただき、評価や臨床の見学などをしました。実際に患者様に評価をさせていただく中で、自分の知識や技術の不十分さを痛感し途方にくれていました。しかし、作業療法士の先生方から温かく指導していただき沢山の経験を得ることができました。実習の中で知識や技術面だけでなく、患者様への安全・負担面の配慮を常に考えて接することや大きな声で挨拶することなど、1つのことだけでなく複数のことに配慮することの大切さや社会性を学ぶことができました。また、患者様がこれからどのような生活をされるのかを予測することの重要性を学ぶことができました。

3週間という短い期間ではありましたが、今回の実習で学んだ経験や知識を糧にして、これからも作業療法士になるため、勉学に励んでいきたいと思えます。



作業療法学科 3年
草間 閑香

患者様の背景を知る

新潟市にある信楽園病院にて、3週間の評価実習をさせていただきました。実習で、評価・訓練・臨床の見学を行う中で、患者様との関わり方について様々なことを学ばせていただき、考えることができました。

中でも私が強く印象に残っていることは、「患者様の背景を知る」という点です。症状や画像診断からだけでなく、患者様の病前の生活や発症までの過程なども含め、あらゆる視点から分析することを学びました。多様なそれぞれの背景を知ることで、患者様が身近な存在となっていく。それにより患者様一人ひとりに対する適切な訓練へと繋げていくことができることを実感しました。

これまで講義で学んだ知識が、今回の実習での経験を通して自身の中でリアルなものとなりました。そして、言語聴覚士に対する意欲が、今まで以上に強いものとなりました。この実習を通して得られた貴重な経験を糧として、今後の学びに努めていきたいと思えます。



言語聴覚学科 3年
大矢 亜衣

学外実習で学んだこと

今回、私は福祉用具の展示・紹介を行っている施設で4週間実習をさせていただきました。

実習では、主に展示ホールを訪れる方の相談対応や福祉用具の紹介を行いました。

相談対応の中で、何気ない会話の中からどのような福祉用具を求めているのかを聞き出すことの難しさ、福祉用具の特性などを誰にでもわかりやすく伝えることの大切さを学びました。また、介護保険制度についての質問を受けた際には、普段大学で医療や福祉について学んでいるために知っていて当然であることが、対象者の方にとっては当たり前でないことを身に染みて感じました。私たち医療に携わっていく者には、それらを対象者の方にわかりやすく伝える責任があると感じました。

また、実習先が医療や福祉に関わる様々な施設が集まっている場所であったため、普段の授業ではなかなか見ることのできない多職種間での連携も多く見ることができ、貴重な体験となりました。

今後、さらに福祉用具に関する知識や分かりやすく伝える力を身につけ、多職種の方とも連携していけるような専門職になれるよう励んでいきたいです。



義肢装具
自立支援学科 3年
増尾 冬花

臨床実習を終えて

臨床技術学科では、臨床工学技士と臨床検査技師の2つの国家資格を取得し、幅広い分野で活躍できる医療技術者を目指すため、工学と検査の両方の臨床実習をさせていただきました。

臨床実習では、直接患者様と関わり、医療スタッフの方々からの熱心な指導を受けながら、臨床現場での緊張感ややりがいを感じられる素晴らしい経験ができました。また、大学で勉強してきた臨床工学技士と臨床検査技師の知識と技術が、検査と工学のどちらの分野にも活かせることを実感しました。臨床実習を通じて、臨床工学技士と臨床検査技師に対する印象が変わり、どちらの職種で患者様の治療に携わっていかたいか決めることができました。

臨床工学技士と臨床検査技師のダブルライセンスを取得することで、携わることのできる業務が広がり、患者様の治療を円滑に行う上で役に立つことができると実感する実習となりました。



臨床技術学科 4年
星 明朱佳

臨床実習を通して学んだこと

私は20日間、新潟大学医歯学総合病院で臨床実習をさせていただきました。学内実習とは違い、実際に患者様に検査・訓練を行わせていただき、とても貴重な経験になりました。

眼科には、乳児から高齢者の方まで様々な年齢の方が来院されます。検査時間が長くなると、小児では飽きてしまったり、高齢者の方では疲れてしまったりすることが何度かあり、患者様の負担にならない素早い検査が求められていることが分かりました。そのためには、技術面での向上が重要ですが、それぞれの患者様に対応した声掛けも大切であると思いました。また、視力低下だけではなく視野や眩しさなど様々な症状を訴える患者様も多いです。そのため、検査方法や使用する器具も患者様によって違います。様々なことを考慮し、患者様の現在残存している視機能に正確に評価し、医師に伝えることが大切だということも分かりました。

今回の実習で経験したことや抱いた感情を忘れず、今後の勉学に励みたいと思います。



視機能科学科 3年
高野 幸穂

公衆栄養学実習Ⅲを終えて

健康栄養学科では計6回の学外実習があります。「公衆栄養学実習Ⅲ」についてお話しします。5日間という短い期間の中で、「災害食の普及」や「健康づくり支援店」など保健所の栄養士が行う業務について取り組みました。

「災害食の普及」に関しては、新潟県中越沖地震など大きな震災を経験しているからこそ、日頃から災害食を備えることの重要性を実感しました。また、管理栄養士としてガスや電気無しで作れる災害食を、日常的に広める必要があると感じました。

「健康づくり支援店」に関しては、食べているだけで健康になれるような飲食店をもっと増やさなければいけないと感じました。そのため、管理栄養士が身体に良いメニューを提供する店を増やす、SNSを活用して広めることの重要性を学びました。

今回の実習では、保健所の栄養士はどのようにアプローチし市民の健康に寄与していくのかを、実際に「見る」「参加する」ことで、自分自身でも考える良い経験となりました。今後も更に頑張っていきたいです！



健康栄養学科 3年
葦沢 麻生

教育実習を終えて

私は、地元北海道札幌市の母校である高校で3週間教育実習を行いました。最終日の合評会を含めた3週間という短い期間の中で、私は主に「授業を進めていく中で生徒の反応を読み、臨機応変に対応すること」を大切に、それに対して大いに評価していただくことができました。

実習では、生徒が「全員主体的・積極的に授業に参加しているか」、「楽しくやれているか」といった点に特に配慮と工夫をしながら授業を行いました。その中で、もっとスムーズにできたのではないかなど、授業を通して生まれた疑問に対して、担当の先生をはじめたくさんの先生方からアドバイスやご指導を受けました。そして、それを次の授業に毎回還元し、昨日より今日、今日より明日と徐々に上手く授業をつくることができるようになったことが本当に良かったと感じています。教育実習では、普段の授業や模擬授業では絶対に経験することのできない濃い時間を過ごすことができました。



健康スポーツ学科 4年
西尾 風花

実習を通じて考えた看護の専門性

4年次の統合実習では、病棟の看護師さんに付けていただき、業務内容や患者様との関わり方など看護の実践について学ぶことができました。また、自分自身が看護師として働くことをイメージすることにも繋がりました。

統合実習の目標の1つに「看護の専門性について考える」という項目があり、実習ではグループで看護の専門性について議論を行い、考えを深めていきました。看護の専門性の1つには、「患者様と他の専門職との橋渡し役」があります。看護師は患者様にとって一番身近な存在であるため、患者様の思いや状況を知りやすい立場です。看護師の把握している情報を他の専門職と共有し、看護師の立場で意見を伝え、多方面から支援を行えるよう調整役の役割もあります。そのようなことが患者様へのより良い医療の提供に繋がれると思いました。

この実習で学んだことを活かして、患者様により良い看護を行えるよう取り組んでいきたいと思っています。



看護学科 4年
堀 真依子

「失敗するチャンスを奪わない」ということ

私が目指す「社会福祉士」、「精神保健福祉士」は、身体や精神に障害があること、または環境上の理由などにより日常生活を営むことに支障がある方の相談に応じ、適切な社会資源サービスの提供を行う専門職です。私は、3年次には一般病院、4年次には精神障害者の自立訓練施設と精神科病院で実習を行いました。

学内講義では、「利用者のできることを奪わない」ということを学んでいましたが、実習を通して、そのことは「失敗するチャンスを奪わない」ということでもあると学びました。失敗した際、何が原因だったのかを振り返ることが大切なのだと指導をいただき、失敗を成功に繋げていくことが利用者の方々の成功体験、自立への近道なのだと感じました。

利用者の方々の性格や障害の程度、家族関係や周囲の環境は、誰一人として同じことはありません。一人ひとりをかけがえのない個人として理解し、その人の力を信じて支援ができる「社会福祉士」、「精神保健福祉士」を目指します。



社会福祉学科 4年
比企 麻里奈

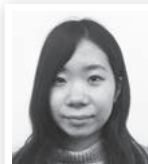
「信頼関係」の重要性

私は、夏休みの期間に1週間の病院実習を行い、「ドクターズクラーク」と「診療情報管理士」の2つの業務を体験させていただきました。

実習では、患者様への次回予約の説明や入院カルテの編綴業務などを行いました。実際に診察室に立って業務を行っていく中で、クラークがいかにコミュニケーション能力を必要とするのかということや、人と人を結び付ける役割であるクラークの職に魅力を感じました。実習中は、医療や保険の知識が足りないと感じ苦戦することもありましたが、今後自分に何が必要かを学ぶことができました。

今回の実習を通して強く感じたことは、病院を支えるスタッフとして「信頼関係」がとても重要だということです。私が見た3つの診療科では、医療スタッフとクラークがとても良い信頼関係で結ばれていて、診察がスムーズに進んでいました。

今回の実習で学んだことを忘れず、将来は相手の気持ちを理解し、スタッフや患者様から信頼される病院スタッフになれるよう努力をしていきたいと思っています。



医療情報管理学科 3年
南 真穂

第16回新潟医療福祉学会学術集会 開催報告

実行委員：健康スポーツ学科

新潟医療福祉学会は、新潟医療福祉大学を中心にした健康・医療・福祉・スポーツに携わる人たちの研鑽の場として立ち上げられました。毎年秋に行われる学術集会は、個々の職能者のみを対象とする集会ではなく、幅広い分野の職能者が集う貴重な機会として、情報交換をしながら、「チーム医療」を実感できる場にもなっています。

今年度は、10月29日(土)に新潟医療福祉大学を会場として、一般演題66題(口演発表5題、ポスター発表61題)、特別講演およびシンポジウムを含め、合計70演題の発表が行われ、発表後には、会頭賞・奨励賞の表彰が行われました。

テーマ

東京オリンピック・パラリンピックに向けた保健・医療・福祉・スポーツの連携のあり方

特別講演

【夢の実現】オリンピック、苦難と栄光、そしてこれから

座長：吉田 重和(新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科)

講師：宇津木 妙子(女子ソフトボール 元日本代表選手および元日本代表監督、世界ソフトボール連盟 理事、NPO法人ソフトボール・ドリーム 理事長)

競技スポーツにおける選手・監督・組織の指導者としての立場から、特にオリンピックとの関わりにおいて経験してきた苦悩やその克服、東京オリンピックに向けた展望について紹介していただきました。

シンポジウム

リオから東京へ 業種間連携における課題と展望

座長：西原 康行

(新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科 学科長)

「国立スポーツ科学センターにおける国際競技力向上支援」

～2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた連携の課題と展望～

講師：高橋 英幸

(独立行政法人 日本スポーツ振興センター 国立スポーツ科学センター スポーツ科学部 主任研究員・リサーチユニット長)

東京オリンピックに向け、国立スポーツ科学センターはより一層の機能強化が求められている。そのためには、スポーツ庁や競技団体との連携を基盤として、大学や研究機関、企業や地域との連携をさらに推進し、新たな支援体制を構築する必要があることを提案する。

「マイナースポーツでも注目が集まる理由」

講師：青柳 勲

(新潟産業大学、ブルボンウォーターボロクラブ柏崎)

競技団体が、競技力・経済的に発展していくためには、競技団体の垣根を超え、産業界・学校・官公庁・地域との連携が必須であると考えます。課題を集約して解決のために協力していくことを目的とした、これまでに行ってきた体制づくりを紹介する。

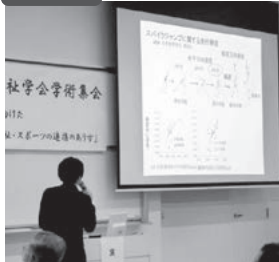
「障害者スポーツについて」

講師：大西 瞳

(パラリンピアン T-42 クラス 100m走 アジア記録保持者、
切断者スポーツクラブ ヘルスエンジェルス)

障害者が「スポーツを始めること」、「スポーツを続けること」は、様々な面での困難があり、誰もがスポーツを楽しめる環境が整っているとは言い難い現状がある。障害者がよりスポーツに親しむためには何が必要なのか、これまでの経験を基にして提言する。

口頭発表



▶午前では、一般演題の口演発表およびポスター発表が行われ、活発な意見の交換がなされました。

ポスター発表



シンポジウム



特別講演



▶シンポジウムでは、東京オリンピック・パラリンピックに向け、選手・各職種、またそれらを取り囲むファン・組織・地域が、どのように連携をしていくべきなのか、課題や展望について3人の先生方からご提案をいただきました。また、特別講演では競技スポーツへの関わり方、特にオリンピックに関する苦悩や今後の展望など、宇津木氏のご経験や人生観に基づいたお話をいただきました。

皆さまのご支援とご理解のもと、正会員110名、準会員・非会員195名、合計305名の方々にご参加をいただきました。また、出展企業2社、広告掲載企業35社、協賛企業11社にもご協力・ご支援をいただきました。皆様のご協力により、盛会のうちに今回の学術集会を終えることができました。改めて心よりお礼を申し上げます。次回第17回新潟医療福祉学会学術集会は、2017年10月に開催される予定です。来年度も多数のご参加をお待ち申し上げます。

卒業生
レポート

FileNo
01

身体だけでなく こころもサポートする 理学療法士に



独立行政法人
神戸市民病院機構
神戸市立医療センター
中央市民病院

理学療法士
小柳 圭一さん

新潟県 新津高校出身
修士課程 保健学専攻
理学療法学分野
平成26年3月卒業

▶ 現在の仕事内容を教えてください。

私は、3次救急病院の脳卒中専門病棟にて専従理学療法士として勤務しています。発症直後から急性期を脱した亜急性期の脳卒中患者様への支援が中心で、自宅退院や後続病院への橋渡しを行う役割を担っています。患者様の中には、まだ循環動態が安定せず急変リスクの高い患者様もいらっしゃいます。十分なリスク管理のもと、早期からリハビリテーションを開始することで廃用症候群を予防しながら機能回復を支援しています。



▶ 理学療法士を目指したきっかけを教えてください。

私は高校時代、野球部に所属していました。入部して間もなく、硬式ボールに慣れていなかったこともあり、肩を故障してしまいました。当時は、野球をすることができず、同級生たちに差をつけられて辛かったことを覚えています。そのときに、初めて理学療法士の方にお世話になり、身体のことはもちろん、精神面でのサポートもしていただきました。この経験がきっかけとなり、理学療法士を目指すようになりました。

▶ 理学療法士を目指す高校生や在学生へ メッセージをお願いします。

理学療法士は運動器、神経、循環器、呼吸器、がん等、様々な分野で活躍しています。当初、私は自らの経験からスポーツ分野における理学療法士を目指していました。しかし、入職したのは、スポーツ分野だけでなく、現在携わっている脳卒中理学療法、呼吸理学療法、循環器理学療法にも興味を持つことができました。

理学療法士は素晴らしい職業です。皆さんもぜひ、理学療法士として働く醍醐味を味わってください。

卒業生
レポート

FileNo
02

日々の業務から学ぶ

新潟県
厚生農業協同組合連合会
糸魚川総合病院

診療情報管理士

遠山 朗さん

新潟県 新津南高校出身
医療情報管理学科
平成28年3月卒業



▶ 現在の仕事内容を教えてください。

私は、病院で主に会計を担当する事務をしています。会計といっても実際に現金を扱う外来業務ではなく、入院患者様の入院費や食事代を計算する入院業務を担当しています。投薬・注射や処置、手術などの情報を医事会計に入力したり、保険証を確認したりして正しい保険請求を行っています。また、毎月レセプトと呼ばれる診療報酬明細書の点検を行い、入院している患者様の診療会計に間違いがないか確認し、保険者に診療費を請求しています。

▶ どのようなところに仕事のやりがいを感じますか？

常に新しい知識を吸収していけることにやりがいを感じます。最初は、保険証の内容が人によって違うことや、薬剤の名前や効果など、大学の授業では深く学ばないことについて、日々の業務から学習していきました。また、病院は医師や看護師はもちろん、検査やリハビリの専門職など、それぞれ専門性を持った職種が集まる場であり、幅広い知識が必要だと感じています。

▶ 本学で学んだことは、現在の仕事にどのように 活かされていますか？

2年生までは、主に基礎医学や臨床医学に関する勉強を行いました。3年生からは資格取得を目指した勉強を中心に行いました。私は、診療情報管理士の資格を取るために、医学関連の勉強だけでなく統計学などの分析の勉強も重点的に取り組みました。特に、病院では多種多様な内容の数字やデータがあるため、分析の知識・技術は間違いなく役立てることができると思います。

▶ 診療情報管理士を目指す高校生や在学生に メッセージをお願いします。

進学や就職は今後の人生を左右する大事な選択になると思いますので、本当にやりたいことが決まったら、それに向けて全力を尽くしてほしいと思います。また、資格取得や勉強は大事ですが、学生時代にしかない楽しいことにも全力で取り組んでほしいと思います。もし、「将来は病院事務として就職したい」という方がいらっしゃれば、いつか一緒に働けることを楽しみにしています！

CAMPUS NEWS

レクア.コム部が県内の社会福祉に貢献した団体に贈られる『北越銀行賞』を受賞!

本学ボランティア部「レクア.コム部」が、県内の福祉施設に特に貢献した個人や団体を表彰する『北越銀行賞』を受賞しました。この賞は、施設職員および一般の施設やボランティア団体に加え、大学生や高校生も表彰対象となっており、「レクア.コム部」は福祉施設に対し奉仕活動、慰問を続けている団体として受賞しました。

“レクア.コム”とは、「レクリエーション&コミュニケーション」の略で、同部は人と触れ合うことを軸に、障害の有無や年齢差に関わらず、対象者や地域の方々へのボランティア活動を行っています。そして、共に楽しむことを通じ自己の成長に繋げることを一番の目的としており、本学開学当初から活動を続けています。



本学では、これからも学生のボランティア活動をサポートし、学生と教職員との協働による地域貢献活動を推進していきます。

アジア義肢装具学会にて学生5名が学術発表を行いました。

11月4日(金)~6日(日)、韓国のソウル市で行われた「Asian Prosthetic and Orthotic Scientific Meeting (APOSM)2016」において、義肢装具自立支援学科の3年生1名、4年生4名が学会発表を行いました。同学会はアジア地域から義肢装具の研究者が集まる権威のある学会です。

日頃の研究活動の成果をまとめて発表し、会場からは研究レベルも高く評価され、英語による質疑応答に対してもスムーズに受け答えできたようです。日頃の地道な学術活動においても、本学の取り組みが国際レベルの学会で評価されたことに、関係者一同、大変嬉しく思っております。本学では今後も学術・研究活動を積極的に支援していきます。



学生が「ユニファイドスポーツ®7人制サッカー」の講習会を受講し『スペシャルオリンピックスコーチ』の認定資格を取得!



健康スポーツ学科では、スペシャルオリンピックスの活動を支援、障害のある人とスポーツについて実践を通して学んできました。スペシャルオリンピックス(以下SO)とは、知的障害のある

人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。

この度、健康スポーツ学科の佐近研究室の学生が、SOが開発したプログラム「ユニファイドスポーツ®7人制サッカー」の講習会を受講し、SOコーチの認定資格を取得しました。

ユニファイドスポーツ®7人制サッカーでは、アスリート(知的障害のある人)とパートナー(障害のない人)が共にチームメイトとしてトレーニングや競技会に参加します。プレマッチによりチームの能力が評価され、同程度能力のチームでリーグを作り勝敗を競います。

現在、学生はパートナー、コーチとして全国大会に向けてアスリートと一緒に練習しています。ご声援宜しくお願いします。



山内一講師が本学学生に対し新潟消防局長公認 普通救命講習を開催!

救急救命学科の山内一講師が、作業療法学科の学生(計41名)に対して、新潟消防局長公認 普通救命講習を開催しました。本講習は、消防署などで年間数回開催されている救命講習で、救急救命学科の山内一講師が新潟消防局長から開催権限を得て本学で開催したものです。これまでも開催されており、今回で累計187名の学生に修了証が発行されました。

講習の内容は、心肺蘇生法を中心とした一次救命処置ですが、医療従事者を育成する本学での開催ということもあり、解剖・生理学、心電図などを取り入れ、通常行なわれている講習内容より詳しい内容となっています。講習のあとは実技を行い、知識と技術を融合させることによって、一次救命処置をより深く理解できる講習内容となっています。

今後は、普通救命講習以外にも上級救命講習、外傷に関する講習なども予定しています。



2016年 プロ野球ドラフト会議にて

笠原祥太郎選手が 中日ドラゴンズより4位指名!



新潟県内の大学から
初のプロ野球選手誕生!

PROFILE
笠原 祥太郎 投手
生年月日: 1995年3月17日
身長・体重: 177cm・85kg
投打: 左左
出身高校: 新潟県 新津高校



Check!
会見の様子は動画で見ることができます。
<https://www.youtube.com/watch?v=T00NZhp8WXU>



10月20日(木)に行われた「2016年プロ野球ドラフト会議」にて、本学硬式野球部の笠原祥太郎選手(健康スポーツ学科4年・新津高校出身)が中日ドラゴンズより4位で指名されました。笠原選手のプロ入りは、新潟県内の大学から初となる快挙です。

指名を受けた後、すぐに記者会見が行われ、笠原選手は指名された喜びや中日ドラゴンズ入団に向けての意気込みを述べました。その後、部員たちにより笠原選手の胸上げが行われ、佐藤和也監督や部員たちと喜びをわかち合いました。今後は12月中旬に正式に契約を結び、名古屋で入団会見が行われる予定です。引き続き、笠原選手および硬式野球部へのご声援をよろしくお願い致します。

interview



- 指名を受けた時の感想は? —
ドラフト会議直前だった秋季シーズンの調子が悪く不安でしたが、4位というかなり高い順位で指名してもらえて、とても嬉しかったです。「認められた!」と感じました。
- プロに向けての意気込みは? —
まずは一軍のレベルにまで成長すること! そして、早く新潟の人たちに応援されるような選手になりたいです。
- 最後に、後輩へのメッセージを。 —
自分自身、小中高で全く注目されていませんでしたが、大学で自分にあった良い環境に巡り逢えて、もちろん努力も、ここまで成長することができました。チャンスはどこにでもあります。諦めずに、そして楽しく野球を続けていって欲しいです。
- 大学野球部時代で印象に残っていることは? —
僕たちは野球部一期生だったので、監督や部員のみならず、この野球部を創り上げたことが印象に残っていますし、とても良い経験をさせてもらったと思います。

ありがとうございました。今後も新潟医療福祉大学一同、笠原選手を応援しています!

日本陸上競技選手権リレー競技大会 女子4×100mRで北信越学生記録を更新!

10月28日(金)~30日(土)に開催された『第100回日本陸上競技選手権リレー競技大会』において、女子4×100mRでは7位入賞、女子4×400mRでは3位入賞を果たしたうえ、北信越学生記録・新潟県記録を更新することができました。

陸上競技部はこの大会でシーズンオフとなります。次のシーズンに向けて冬季のトレーニングにチーム一同励んで参りますので、来年度も新潟医療福祉大学・陸上競技部への熱い応援をよろしくお願い致します。



伍桃祭を終えて

第16回伍桃祭(大学祭)報告

今年の伍桃祭は、「千祭一遇」というテーマで開催しました。「千祭一遇」は、千載一遇の造語であり、四字熟語本来の意味を踏まえて、「今年でしか作り上げることができない最高の伍桃祭にする」という強い願いを込めました。今回の伍桃祭は、実行委員はもちろん、ステージでパフォーマンスを披露してくれた部活動・サークルの皆さんや出店を企画してくれた学生団体の皆さん、事務局の方々など、本当にたくさんの方々のご協力のもとで開催できました。

今回は、6組ものよしもとの芸人の皆さんを迎えてライブを開催し、多くの方にご来場いただきました。ライブが始まるやいなや、笑いが沸き上がり、笑顔になった来場者の皆さんを見て、これまでにない充実感を

得ることができました。

今年も天候の心配はありましたが、2日間ともすべてのイベントを無事に行うことができました。来場者の皆さんが笑顔で帰る姿を見て、ここまでやってきて本当に良かったと感じました。これはきっと私だけでなく、運営委員全員が感じたことではないかと思えます。

最後になりますが、無事に伍桃祭を終えることができたのも、地域の方々やご協賛いただいた企業様をはじめ、教職員の方々や参加してくれた学生の皆さんなど、多くの方々にご協力いただいたおかげです。そして、企画・運営してくれた学友会・伍桃祭実行委員に感謝します。ありがとうございました。

第16回伍桃祭実行委員長兼学友会副会長 早坂 陽太



高校生のみなさんへ

春のオープンキャンパス 3月18日(土)

バスツアー
運行予定!

新3・2年生に向けて、「大学・入試説明」はもちろん、「施設見学」や「個別相談」「体験プログラム」など様々なプログラムをご用意しています。また、保健・医療・福祉・スポーツ分野の仕事内容や資格、養成校の最新情報、大学と専門学校の違いなど、皆さんの進路選択に役立つ情報が満載の「進学総合ガイダンス」など、春のオープンキャンパス限定のプログラムも計画しています。どうぞお気軽にご参加ください。



一般入試・センター試験利用入試ご案内

■一般入試日程

日程	出願期間	試験日
前期	12/26(月)~1/17(火) [消印有効]	2/2(木) 2/3(金)
後期	2/8(水)~2/22(水) [消印有効]	3/8(水)

■センター試験利用入試日程

日程	出願期間	試験日
前期	12/26(月)~1/23(月) [消印有効]	本学独自の 個別学力検査等は課さない
後期*	2/8(水)~2/22(水) [消印有効]	

*作業療法学科・健康栄養学科を除く10学科にて実施

■一般入試のポイント

- 前期日程は2日間の試験日を両日受験することで合格のチャンスが拡大!
⇒「第2志願制度」の活用で最大4学科まで出願可能!
⇒ 両日共に同一学科に出願した場合、高得点の試験日の点数を採用!
- 前期日程では、特待生制度で最大4年間の授業料が全額免除。
- 「第2志願制度」の活用により、一度の出願で第2希望学科まで志願可能。
※「理学療法学科」「臨床技術学科」「看護学科」を第2志願とすることはできません
- 前期日程では全国8都市、後期日程では全国5都市に試験会場を設置。
(前期日程:新潟・東京・郡山・高崎・長野・富山・鶴岡・仙台)
(後期日程:新潟・東京・郡山・長野・鶴岡)

■センター試験利用入試のポイント

- センター試験を受験し、自己採点を終えた後でも出願可能!
- 選択科目は高得点科目を自動的に採用!
※地理歴史・公民および理科②は、第2解答科目の得点を採用
- 「複数学科への出願」や「一般入試との併願」で合格率UP!

インターネット出願へ
平成29年度より完成移行!
インターネット出願では、
1出願につき3,000円割引!



新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL 025-257-4455(代) FAX 025-257-4456
URL <http://www.nuhw.ac.jp/>
スマートフォンサイト <http://www.nuhw.ac.jp/sp/>
【入試事務局】TEL 025-257-4459
E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっていきます。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポート)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様に本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

